

メカライフな No.1 人々



カルロス・ゴーン氏

日産自動車株式会社 社長 Carlos Ghosn氏

メカライフ学生委員ではこれまでに、施設や装置にスポットを当てた『訪問記』を企画・取材してきました。しかし、取材をするたびにそれらの施設や装置等だけではなくその開発にたずさわった方々にも興味が湧き、また、ぜひこの人にお話を聞きたいという願望も出てきました。そこで、本号から新たにメカライフ学生委員によるインタビュー企画として『メカライフな人々』を立ち上げ、開発の経緯や機械系学生に期待することなどについてお話を伺うことにしました。

第1回目にご登場していただくのは、日産自動車(株)社長でおられるカルロス・ゴーン氏です。今や敏腕経

営者として認識されているゴーン氏。その目には、日本の学生の姿はどのように映っているのでしょうか。ご自身の学生時代の話とともに伺いました。

ゴーンさんはブラジル、レバノン、フランス、アメリカ、日本と5箇国に滞在経験がありますが、今の日本の学生をどのように評価しますか？

明らかに、今日の日本の若い人々は非常にパワフルでオープンな世代です。そして、非常に前向きで、チャレンジ精神にあふれています。個人的に私は、日本の若い世代こそ日本が現在直面しているさまざまな問



日産本社応接室にて

題を解決してくれるだろうと期待をしています。私はとても楽観的で面白いことが好きです。そして、若い世代もまじめな世代であると同時にとても楽しむことが好きだと思います。彼らは活力にあふれ、非常にオープンです。

日本の女の子たちをかわいいと思うかですか？もちろんかわいいと思いますよ。(笑)

現在社長として活躍なさっているゴーンさんですが、学生時代には苦勞されたことがあったと思います。当時の苦勞話をいくつか聞かせて下さい。

苦勞話はたくさんあります。フランスの教育のシステムを知っていますか？それはまさしく競争なのです。競争が激しいので、何もせずぼんやりとしては大学には進学できません。

例を挙げてみましょう。エコール・ポリテクニーク¹では選抜きの学生のみを入学させていました。大学入学資格を取った後、Aプラスの成績でないと入試の準備コースに入れません。その準備コースには、AまたはAプラスの生徒たちが選ばれます。そこでAまたはAプラスの生徒たちは一年間準備を積みます。そして、その中からたった10%の生徒たちだけがエコール・ポリテクニークへの特別準備コースに進めます。つまり、これらすべての生徒たちは競争を強いられているのです。フランス全土からの5000人の候補者の中から300人が選ばれます。わかりますか？大変厳しい選抜なので、とてもたくさん勉強しなくてはなりません。この競争を生き抜くということは、18歳の人間にとって、大変な

挑戦であったということがわかっていただけたと思います。

とても驚いた特殊な例をもう一つ挙げたいと思います。エコール・ポリテクニークでは、経済の授業があり、私は、マクロ経済学とミクロ経済学をとりました。エコール・ポリテクニークでは数学にとっても大きな重点が置かれており、どこかしこにも数学が出てきます。しかし、私が大変驚いたのは、最初にミクロ経済学の授業に出席した時、今でもよく覚えています。先生は「最初の章は“RENTE”²についてです」といいました。彼は、「“RENTE”は何かを所有しているということにより利益を得ることを意味しています」という説明を与えずに、とても複雑な関数の三重積分で定義しはじめました。そこから、彼は数学の授業を始めたのです。そして、一時間後、私は、「いったい、このクラスはミクロ経済学のはずなのに」と思いました。

実際には、エコール・ポリテクニークではすべてのミクロ経済学は数学に変換して考えられていました。これは大変な驚きで、私にとって少々困難なことでした。なぜならば、具体的なものを扱いたいのに、常に、抽象的な理論や細かな議論へと引き戻されてしまうからです。ただし、これは常に、現在起こっている現象から距離を置き、主な原因を突き止める助けになります。しかし、これは、あくまで非現実的な議論です。18、19歳の人間にとっては、非現実的なもののみ扱いたくはありません。生活に密着した、具体的なものに接していたいと思うものです。

¹ エコール・ポリテクニーク(国立理工科大学):グランゼコール(フランスの高等専門大学)のひとつ。一般大学に入学するのであれば大学入学資格(バカロレア)に合格すればよいが、グランゼコールには準備学校で2年間ほど勉強し、入学試験を受けなければならない。

² RENTE(地代,地代学説):たとえば土地を所有していた場合、その所有していること自体により収入があるということ。労働からではなく、所有物から生じる収益を示す。三重積分の数学的概念。数学的概念を始めた人物の名前に由来し、ミクロ経済学の数学科目のことを示す。



質問に快く答えて下さっているゴーン氏

このように大変な競争社会のなかで学生時代を過ごされたわけですが、勉強以外の生活はどのようにでしたか？勉強以外のことをこなす時間はあったのでしょうか？

パリへ行ったことがありますか？ある方にはわかると思いますが、エコール・ポリテクニクはカルチエ・ラタンにあります。カルチエ・ラタンはパリにおいて最も人気のある場所です。学校の勉強は大変でしたが、遊びにも熱中しました。勉強の後には小さなコーヒーショップやレストラン、バーなどに繰り出しました。私たちはまだ若く、学生という責任のない身分でしたし、勉強している時には大きなプレッシャーを感じましたが、それ以外では自由気ままでした。私たちは決して学生生活に失望などしていませんでした。むしろ自由でした。時間はそれほどありませんでしたが、時間があるときには気ままに過ごしていました。

学生にとって、夕方は遊ぶのにもってこいの時間です。学生生活の中で重要なことはバランスを保つことです。あなたがたは人生においてバランスを保たなくてはなりません。ビジネスだけではなく、すべてにおいてバランスはたいせつです。私が学生だった頃は、確かにたくさん勉強しましたが、同時に時には外に出るということもたいせつにしました。これはとてもたいせつなことであり、私にとって勉強以外で過ごした時間はすばらしいものでした。そのため昼間はとても忙しかったです。今の学生さんは昼夜を問わず忙しそうですね。



ゴーン氏の話に耳を傾ける取材班（左から関谷，松原）

人生の先輩として、私たち学生にメッセージをいただけますか？

日本の学生には世界で2番目に大きな経済大国で学び、働くという大きなチャンスがあると思います。私は、日本よりも貧しい国々に住んでいましたので、インフラが完備されておらず低収入の人々が多くいる暮らしを身をもって体験しました。日本の学生は挑戦する機会にめぐまれており、挑戦して行かなければ、あなた自身が生まれたときや教育を受けた時よりも日本が極めて悪化した状況に転じてしまうということになりかねません。日本はいくつものすばらしい時代を作り上げてきたすばらしい国で、すばらしい挑戦をすることができます。若い世代こそその挑戦に立ち向かっていかなければなりません。その挑戦から逃げることはできません。私が日本の若い世代の人々や学生を見る限り、私は日本の将来をとて樂觀視しています。将来何が起きるかわかりませんが、それは誰にもわかりませんが、私は非常に樂觀的です。

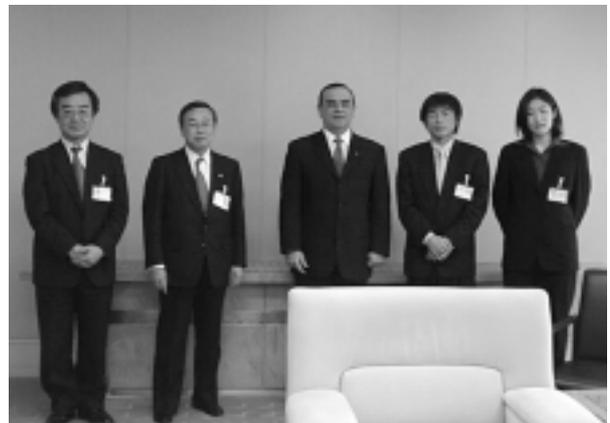
お忙しい中、ありがとうございました。

冷徹そうなイメージのあったゴーン氏ですが、実際にお話を伺い、全く間違った認識をしていたことに恥ずかしくなりました。冷徹そうに見えたのは、何事にも真剣に取り組むゴーン氏の姿勢を表していたのだと感じました。ミシュラン、ルノー、そして日産の再生を手がけていらしたという情熱的な方であるだけでなく、周りへの心配りのある暖かい方でした。私たち学生のつたない英語にも嫌な顔一つせず、質問への受け答えも明確で、^{颯々}とした感じが印象的でした。ゴーン氏の眼差しの鋭さは、物事の真意を見つめる眼差しでした。

大変ご多忙にも関わらず貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。心よりお礼を申し上げます。

（文責 メカライフ学生委員

松原悠子，関谷 洋，小山 猛）



左より寿山学会事務局，小林学会前会長，ゴーン氏，関谷，松原